

一般県道福井鯖江線 白鬼女橋

(平成20年3月21日開通)

事業概要

一般県道福井鯖江線は、福井市みのり1丁目を起点として、鯖江市五郎丸町で国道8号に至る延長19.3kmの幹線道路で、福井市と丹南地域を結ぶ重要な路線です。

本路線のうち、日野川を渡る白鬼女橋（しらきじょばし）は、昭和36年に架けられたもので幅員が5.0mと狭く、大型車のすれ違いも困難であり、朝夕の混雑は慢性的でした。また、年々増加する交通量に伴う損傷や老朽化も激しいために架け替えが必要となりました。

新しい白鬼女橋の完成により、安全で円滑な交通を確保するとともに、地域住民の利便性の向上が期待されます。



位置図、平面図



白鬼女橋の歴史

白鬼女の歴史



●白鬼女御の古文書「白鬼女御の古文書」より



●江戸時代の白鬼女の渡し場の様子「江戸時代白鬼女渡し場跡」より



●明治初期の白鬼女橋（釣橋）内部の様子



●昭和36年から平成20年までの白鬼女橋

●戦国時代
 戦国時代に何千人という兵員を迅速に移動させるために船を並べて渡る船橋があった。（左図参照）

●安土橋山時代
 白鬼女村船頭と上郷江村の持高の警役が免除された。

●江戸時代
 兩岸に張り渡した綱をたぐって渡る「渡舟場」となった。（左図参照）
 舟の大きさは、長さ約16m、幅約2mの大きさであったとされている。

●明治時代
 1873年（明治6年）：釣橋が架けられた。（左図参照）
 1891年（明治24年）：長さ54間、幅3間の本橋が県費にて架けられた。
 1910年（明治43年）：国道として幅2m余の板張橋が架けられた。

●大正時代
 1912年（大正元年）：現在地において、幅5mの土砂盛りの木造橋となった。

●昭和時代
 1961年（昭和36年）：コンクリート橋（長さ176m、幅5m）プレストレストコンクリートT桁の県道橋が完成する。

●平成時代
 2008年（平成20年）：新しい県道橋（長さ178.5m、幅13m）が完成する。

ポケットパーク

白鬼女橋の歴史を伝えるポケットパークを、橋東側の県道北側に整備します。

白鬼女の歴史伝承

白鬼女の歴史を伝える「白鬼女橋観音ポケットパーク」

※白鬼女御堂（熊江市側）の県道北側に整備します。

歴史を伝える

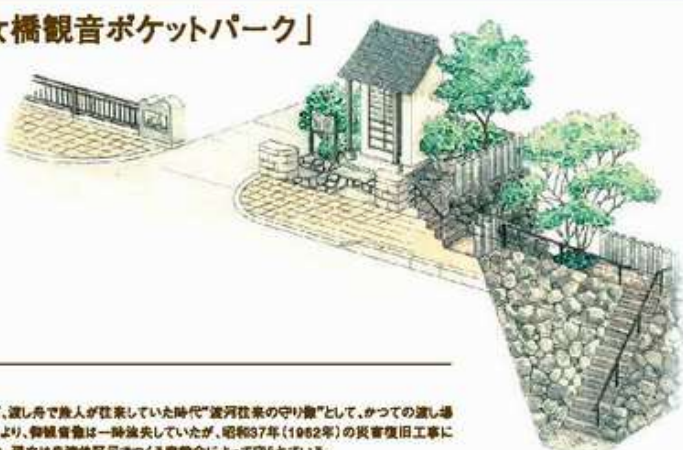
歴史を感じる

交流と安らぎを与える

日野川舟運の要所であった白鬼女の歴史を、後世に伝えることができる場所づくり。

観世音様を収めている御堂を中心に、周辺と調和した風情あふれる景観づくり。

白鬼女を訪れる人々が交流し、安らぎを感じることができる空間づくり。



●観世音像について

製作年代、建立時期などについては不明であるが、渡し舟で旅人が往来していた時代「道河往來の守り像」として、かつての渡し場に設置されていたとされている。17世紀の大洪水により、御堂音像は一時消失していたが、昭和37年（1962年）の災害復旧工事において白鬼女橋から約80m下流の川底から発見され、現在は舟運地区民でつくる奉賛会によって守られている。